

第3章 基本理念と基本目標

I 基本理念

「食を通して豊かな人間性を育みます」

「食」は、食べ物や食事だけでなく、「食べる」という行動から、食を通じたコミュニケーション、健康的な食環境、食品ロスの少ない社会、北海道の豊かな農水産物の利用や食文化を継承するなど幅広い意味を持ちます。

「食」に関する様々な知識を身に付け、適切な食品の摂取をするための判断力や技術を養い「健全な身体」を培い、「食」に関する人々の苦労や努力を理解すると共に、伝統的な食文化を理解し、豊かな心を育て笑顔が広がる街づくりを目指します。

II 基本目標

次の3点を基本目標として推進します。

1 健やかで心豊かな食生活の実現

健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことであり、平均寿命と健康寿命との差が短いことが望ましく、そのためには、生活習慣病の発症・重症化の予防を推進するため、減塩などの健康的な食習慣を身につけることや、メタボリックシンドローム、肥満、やせ、低栄養の予防や改善等の食育を進めることが重要です。

特に若い世代では、食に関する知識や意識、実践状況で他の世代より課題が多いことから、若い世代への食育を推進する必要があります。

また、少子高齢化が進む中、世帯構造や社会環境が変化し、単身世帯やひとり親世帯等が増え、家庭生活の状況が多様化する中で、子どもや高齢者を含む全ての市民が健全で充実した食生活を送れるよう、コミュニケーションの場や、豊かな食生活にもつながる共食の機会を増やす食育を進めることも重要です。

2 食の循環や環境・安全を意識した食生活

「食」に対する感謝の心を深めていくためには、自然や社会環境とのかかわりの中で、食料の生産から消費に至る食の循環を意識し、生産者をはじめとして多くの関係者により、私たちの食が支えられていることを理解することが大切です。地元でとれた食材を意識して活用する

ことや、農に触れる機会を持つことは、食の循環を理解する上で有効であり、このような食育の取組を進める必要があります。

また、食品が食べられるのに廃棄されているという食料資源の浪費や、環境への負荷の増加にも目を向けることが必要です。これらを踏まえ、食べ物を無駄にせず、食品ロスの削減に取り組むことは食育としてとても大切です。

「食」の安全性の確保について、市民の関心は非常に高く、食品の提供者が食品の安全性の確保に万全を期すことが重要です。また、食品を消費する立場にある市民が、食品の安全性をはじめとする食に関する知識と理解を深めることが重要です。

3 食文化の継承と食育推進体制の整備

食の多様化や地域のつながりの希薄化により、日本の食文化が徐々に失われつつある中で、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを踏まえ、伝統的な食文化や食事の作法など、それらを理解し親しむ市民を増やすことを食育の取組のひとつとして進めていくことが必要となっています。

札幌市では、栄養バランスのとれた健康的な食事と、北海道の豊かな食材を使用した食事である「北海道型食生活」に加え、「環境配慮」という要素を組み合わせた食生活のスタイルを「さっぽろ食スタイル」として推進しており、今後も継続して進めていくことが必要です。

食育に関する施策の実行性を高めていくためには、行政機関だけでなく、教育関係者、食品関連事業者等食育に関係する様々な関係者が主体的かつ多様に連携していくことが重要です。

また、市民ひとり一人が、健康的で豊かな食生活を実践するためには、地域や所属するコミュニティで食育に関するボランティア活動を進める市民の存在がとても大切です。多くの市民ボランティアが、食育を進めやすい体制の整備をしていくことが重要です。